

**取組の名称** デートDV防止教育講座  
10月19日（水）5・6校時  
**取組の概要** 場所：帯広柏葉高等学校体育館



【講演の様子】

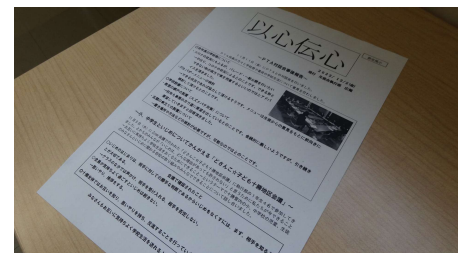
【ねらい】  
デートDVについて学び、被害者にも加害者にもならないための心の持ちようやどのような社会の在り方が大切かを学ぶ機会とする。

【概要】  
NPOピーチハウスファシリテーターから2名の講師をお招きし、講演や教員・生徒によるロールプレイングを行い、役を交代しながら実演し、お互いの気持ちや対等な関係性について理解した。また、ジェンダーバイアスについて学ぶ機会もあり、それぞれが人権を大切にしながら、共生社会の在り方について主体的に学習した。

【生徒の感想】  
何気ない一言が他人を傷つけることを理解した。互いの気持ちを把握するために、しっかりと対話することの重要性を学んだ。

**成 果** 他者理解に留まらず、自身や人々の心の在り方や持ちようについて考え、望ましい社会生活をどのように構成するのかを考える機会となった。学校で学んでいることが実社会の問題提起に結びつくような発言等が見受けられ、学びが深まったと実感した。

**取組の名称** 生徒会通信と目安箱を活用した“いじめ根絶運動”  
通年  
**取組の概要** 場所：帯広三条高等学校



【発行した生徒会通信】

【ねらい】  
生徒会通信と目安箱を活用し、生徒がいじめに対して主体的に考えることを通して、いじめを絶対に許さない態度を育成する。

【概要】  
生徒会執行部が年間を通して発行している生徒会通信に「どさんこ☆子ども地区会議」で確認されたこと等を掲載するとともに、いじめについて気になることについて常設の目安箱に投函することを呼び掛け、いじめの芽を早めに摘み取ることの重要性を訴えた。

【生徒の感想】  
いじめ問題について、十勝の児童生徒が一丸となって取り組んでいることを知った。いじめは絶対に許されないということを改めて考える機会になった。



【廊下に設置している目安箱】

**成 果** いじめを根絶するための方法について、自分の考えを相手に伝える生徒がいたり、いじめの定義について改めて確認する生徒がいたりするなど、お互いに気持ちよく学校生活を送るための方策について考える機会となった。

**取組の名称** アサーショントレーニング

12月9日(金) 6校時

**取組の概要** 場所：帯広緑陽高等学校

**【ねらい】**

「心の育成」指導の一環として、自分の考えや気持ちを円滑に伝える具体的な方法を事例研究の形で考える。

**【概要】**

全校生徒を対象に、4～6名程度のグループに分け、チェックリスト1～3に取り組み自己分析を行った後、自分の意見の伝え方のタイプを踏まえ、事例を使って自分と相手の両方を尊重する話し方についてトレーニングを行った。

**【生徒の感想】**

日常生活の何気ない言葉や行動が、他人の感情を逆なでしていないか、時々チェックし、失敗したなと思ったらすぐに謝ることが大切だと思った。



【活動の様子】



【交流の様子】

**成 果** 実施後の生徒の言葉から、「上手な人間関係を築きたい」、「誰にでも優しく接していきたい」「相手を理解する努力をしたい」等、他者の気持ちへの意識が高まった。

**取組の名称** 「子どもの権利条約」出前講座

12月13日(火) 2校時・15日(木) 3校時

**取組の概要** 場所：帯広工業高等学校 実習室

**【ねらい】**

子どもがもっている権利を理解し、不当な扱いや差別を親や教師、生徒間で受けることなく、被害者にも加害者にもならないスキルを学ぶ。

**【概要】**

講師による講座(問答法、パワーポイント使用)、子どもは差別を受けないように育つという考えを根幹に講話が進められた。最後にアンケートを行った。

**【生徒の感想】**

毎日の生活の中で、色々な悩みがあり、人間関係やストレスなどで自分の感情を上手くコントロールすることができない状況もあるけれども、相手を思いやり共感することがいじめや暴力をなくしていくことにつながると思う。



【説明を受ける様子】



【講師に謝辞を述べる様子】

**成 果** 生徒は自分たちが親によって守られてきた(いじめからも)ことを実感したと感じた。共感するには相手の置かれている状況を経験しなければ難しいため、生活の中での多くの体験が、共感力を高める原動力だと気付かされたと思う。

**取組の名称** 「あいさつ運動」の取組

通年

**取組の概要** 場所：帯広農業高等学校 生徒玄関

**【ねらい】**

全校生徒が挨拶を通して、コミュニケーションの活性化を図る。

**【概要】**

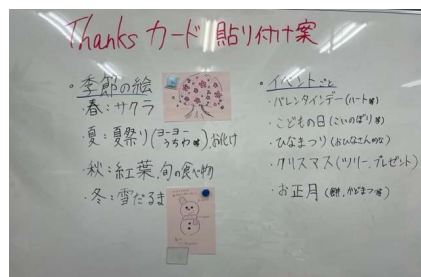
挨拶や声かけなど、生徒同士が関わる機会を多くし、お互いを知るきっかけをつくり、明るい学校づくりやいじめを減らす一助とするために「朝のあいさつ運動」を行った。当番生徒が輪番で朝、生徒玄関に立ち、率先して挨拶・声掛けをし、習慣化して今後も続けていく。

**【生徒の感想】**

朝から明るく笑顔の挨拶を誰かからもらえると、とても嬉しくなる。この「あいさつ運動」があることで、普段から多学年とも挨拶をするようになった。



【あいさつ運動の様子】



【Thanks カードのイメージ】

**成 果** この活動により、少しずつだが他クラスの生徒との関わりが増えてきているように思えた。また、この活動により生徒たちの意識も変わり、他者に見える形で学校全体で感謝を伝える「Thanks カード」という企画をやりたいと生徒自らプレゼンするようになった。企画の立案をし、いじめを無くしていきたい、明るい学校にしていきたいと思える生徒が増えてきたことが今回の最大の成果と考える。

**取組の名称** 生徒会主体の「学校生活改善」の取組

通年

**取組の概要** 場所：北海道音更高等学校

**【ねらい】**

生徒会が主体となって、全校生徒が困っていること、悩んでいることなどを意見BOX・全校アンケートを使って集約を図る。

**【概要】**

各階に「意見BOX」を置き、全校生徒からの意見を集約し、その解決を教員や学校に提案する。ご意見ボックスに入った意見は生徒会だよりに掲載され全校で共有される。

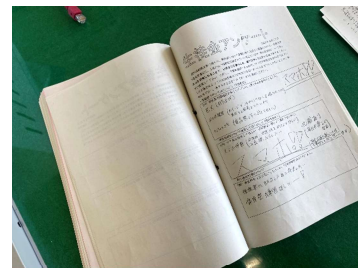
全校アンケートは2月に実施。次年度の計画を立てることを主な目的として実施。校則の改善の取り組みを兼ねている。

**【生徒の感想】**

- ・R4年度は実際にいじめに発展しかねない事案が記載され、いじめ防止の取組につながった。
- ・生徒会が学校生活改善に動いてくれているのは頼もしい、生徒の意見が活かされる学校になってほしい。



【意見BOXの様子】



【実際のアンケート】

**成 果** 全校アンケートでは、「上級生が下級生の悪口を言っている」という記述があり、事実関係を確認のうえ、いじめ対策委員会で対応する予定である。

## 北海道土幌高等学校

校長名 渡 邊 邦 夫 全校生徒数147名

**取組の名称** 「土幌町どさんこ☆子ども地区会議」

12月12日(月) 放課後

**取組の概要** 場所：土幌高等学校(オンライン開催)

### 【ねらい】

町内小・中・高で情報交換を行い、いじめについて主体的に考え、いじめを許さない態度の育成を図る。

### 【概要】

小・中・高のいじめ防止の取組を紹介し合い、いじめをなくすための取組を交流した。土幌町教育委員会教育推進課の方にアドバイスをもらい、今後の取組の参考とした。

### 【生徒の感想】

小学校や中学校でもいじめ防止の取組を積極的に行っていて、高校の取組をもっとグレードアップさせていかなければならないと思った。



【土幌高校の発表の様子】



【meet 会議の様子】

**成 果** 生徒会役員が小学校・中学校の取組を知り、高校では生徒会が中心となって、いじめ防止の取組を行っていかねばいけなくと強く感じており、いじめ根絶に対する意識が高まった。

## 北海道鹿追高等学校

校長名 俵 谷 俊 彦 全校生徒数121名

**取組の名称** 「鹿追町子ども会議」の取組

10月20日(木) 放課後

**取組の概要** 場所：鹿追高等学校視聴覚室

### 【ねらい】

鹿追町内の児童生徒を対象にいじめの防止に向けて協議等を行う場面を設定し児童生徒等が他校の取組や児童生徒の考えに触れ、自校で取り組む内容の工夫改善を図るなど、いじめの防止に向け児童生徒が自主的な活動を推進する絆づくりの教育活動の充実に資する。

### 【概要】

町内の小中高校の生徒会の生徒が一堂に会し、各学校の取組についてまとめてきたものを発表した。その後、小学生と中学生・高校生のグループに分かれ「いじめをなくすためにできること」について議論を深め、共有した。

### 【生徒の感想】

普段接点のない小学校や中学校の児童生徒と交流ができ新鮮だった。特に小学校は仲よくみんなで遊ぶことが目標であり、学校が楽しくあるために生徒会が活動していることを改めて気付かされた。



【開会式の様子】



【話合いの様子】

**成 果** 普段接点のない小学校や中学校の児童生徒と交流ができ、刺激を受けることができた。高校生は中学校、小学校のグループの議論を進める立場として積極的に関わりアドバイスをする様子が見られた。

**取組の名称** 「いじめ根絶のための標語」作成

12月12日(月)～22日(木)

**取組の概要** 場所：各HR教室

**【ねらい】**

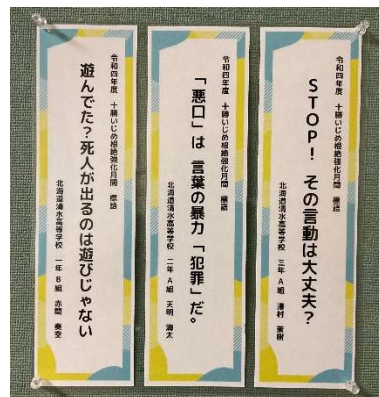
標語の作成を通じて、生徒一人一人がいじめについて考える機会を創出し、いじめ防止への意識の向上を図る。

**【概要】**

生徒会執行部の発案で、本校の「いじめ防止のための基本的な方針」の内容に基づいて、全校生徒が「いじめ根絶のための標語」を考えた。その中から内容のいいものを各年次で1作品選び、各年次フロアに掲示した。

**【児童生徒の感想】**

今回、いじめに関する標語を書いたことで生徒一人一人がいじめに対する考え方や捉え方を再認識でき、改めていじめは絶対にいけないことだと感じたと思った。他の内容についても定期的に標語を書くなどの取組を行うことで、今おかれている環境の大切さを実感できると思うので、これからもこのような取組をしていきたい。



【校内に掲示した標語】

**成 果**

全校生徒を対象に実施したことで、生徒一人一人がいじめについて深く考えるきっかけとなった。また、代表作品選出の際に、他者のいじめに対する考え方に触れることで、いじめを絶対に許してはいけないという認識を共有することができた。

**取組の名称** 生徒会主体の「いじめ根絶集会」の取組

通年

**取組の概要** 場所：芽室高等学校体育館

**【ねらい】**

いじめ根絶集会において、いじめを絶対に許さない態度の育成を図る。

**【概要】**

生徒会執行部で検討した結果、今年度は一般生徒からいじめ根絶のスローガンを募集し、全体から1つ、各学年から1つずつの合計4つを選出し、第3学年にはステージ上で(第1・2学年には放送で)披露した。スローガンは印刷し、校内4か所に掲示し、いじめ根絶の呼び掛けを継続的に行うこととした。

**【生徒の感想】**

- いじめについて考えるきっかけができたので、いじめ根絶につながると思う。
- いじめについて今一度深く考えたことで、いじめ対策の重要性を強く感じた。



【スローガンを発表する様子】



【掲示する様子】

**成 果**

今年度も一般生徒全員からスローガンを募集し、いじめ根絶の意識付けとした。今後も継続的に取り組んでいき、いじめ根絶の意識が一層浸透していくことを期待したい。

**取組の名称** 生徒会主体の「いじめ根絶集会」の取組

2月27日(月)放課後

**取組の概要** 場所：生徒会室

**【ねらい】**

「どさんこ☆子ども十勝地区会議」の報告を行い、情報共有を図る。また、すべての生徒が安心してのびのびと学校生活を送れる学校にするために、今後どのような生徒会活動をして行くべきかを考える機会とする。

**【概要】**

生徒会長より、「どさんこ☆子ども十勝地区会議」の報告を行った後に、今後の(主に来年度)生徒会活動計画の見直しや企画立案を行った。

**【生徒の感想】**

本校では特にいじめを感じたことも意識したこともないが、お互いをよく理解せずに憶測で判断してしまい、嫌な思いをさせてしまうことがあるのではないかと。生徒会では、みんなが交流できる場を多く作っていききたい。



【生徒会執行部会の様子】

**成 果** お互いの理解不足や心の状態が悪いときにいじめが起きると予想される。解決策として生徒会でできることは、みんなが楽しめることを企画し、明るく楽しい学校にすることだと言う結論にたどりついた。

**取組の名称** 体育大会(生徒会主催)における新たな取組

12月16日(金)1~6校時

**取組の概要** 場所：大樹高等学校体育館

**【ねらい】**

体育大会において、男女混合など従来の垣根を越えたグループ分けを行い、生徒個々人の新たな交流や相互理解を図り、各人相互の人格を尊重する態度を養う。

**【概要】**

生徒会と体育委員会が中心となり、午前と午後で異なるグループ分けをしてバレーボール等の競技に取り組み、勝利ではなく楽しむこと、人間関係を構築、発展させること、上記目標を意識した取り組みがいじめの撲滅につながるなどと呼びかけつつ交流した。

**【生徒の感想】**

普段とは違うメンバーと一緒に練習し、力を合わせて活動することで、クラスメイトの新たな一面を知ることができた。また、力の差や周囲の目を気にしすぎることなく、自分のペースで大会を楽しむことができた。



【体育大会の様子】

**成 果** 体育大会実施後のアンケートにおいて、少人数の固定化された人間関係の中でも新しい人間関係を構築できた、周囲の人々の新たな魅力を発見したと回答する生徒が4分の3となり、互いの人格を認め合う態度が身についたと考えられる。

**取組の名称** 生徒会主体の「いじめ根絶集会」の取組

12月15日(木) 4校時

**取組の概要**

場所：広尾高等学校体育館

**【ねらい】**

いじめ根絶集会を9月に実施し、12月に通信を発行し、生徒がいじめに対して主体的に考えることを通し、いじめを絶対に許さない態度の育成を図る。

**【概要】**

生徒会執行部を中心に運営。まず実際に起きたニュース(奈良北高校自殺事件)を視聴し、4~5名のグループに分けてテーマごとの話し合いを進めた。次に生徒会執行部が作成したいじめのケース動画を視聴し、議論を深めた後にグループの意見を全体で共有した。

**【生徒の感想】**

いじめは絶対に許されないことを改めて実感した。多様な考えを理解しようとする態度やありがたいの気持ちを伝えていきたい。



【生徒会執行部が説明する様子】



【ディスカッションの様子】

**成 果**

いじめ根絶集会の実施後のアンケートでは、「いじめは本当にはあってはならないこと」といった記述があり、いじめ根絶に対する意識の高まりが見られた。

**取組の名称** 「サンクスカード」の取組

12月2日(金)~12月22日(木)放課後

**取組の概要**

場所：幕別清陵高等学校校舎内

**【ねらい】**

感謝の気持ちや他者のいいところを互いにカードに書き伝えることを通じて、自己肯定感や他者受容を高めると共に、いじめ事案が生じる前の生徒同士や教職員と生徒との関係性を円滑にし、いじめ予防を図る。

**【概要】**

誰かに感謝を伝えたり、誰かのいいところを伝えるサンクスカードを廊下に設置し、投票箱に投函してもらう。投函されたカードは廊下に掲示されているハート型のイラストに貼って掲示する。宛名があるものについては、最終的にまとめて該当生徒や教職員に渡す。

**【生徒の感想】** 一部抜粋

普段、言えなかったこともこの機会に伝えることができた。



【サンクスカードを書く様子】



【サンクスカード】

**成 果**

実施後のアンケートでは、カードを投稿した生徒は全体の30%程度、次年度はぜひやってみたいと回答した生徒は65%と反響はあった。多くの生徒が参加してくれたことで関係性の向上や他者との関係性について考える機会を作ることができた。

**取組の名称** 生徒会主体の「いじめ根絶宣言」の取組

1月18日(水)6校時

**取組の概要** 場所：池田高等学校(放送による実施)

**【ねらい】**

全校いじめ根絶集会において、生徒がいじめに対して主体的に考えることを通して、いじめを絶対に許さない態度の育成を図る。

**【概要】**

生徒会執行部が中心となり、全校生徒に向け、「いじめ根絶宣言」を行う。計画段階では全校集会形式を予定していたが、コロナ感染拡大予防のため、生徒会長が校内放送で全校生徒へ向け呼び掛けを行った。

**【生徒の感想】**

SNSにおける日常の何気ないやり取りの中で友人を不安にさせることが無いよう呼びかけを行うことができ、有意義だった。これをきっかけにいじめのない学校づくりへの意識を高めていきたい。



【生徒会執行部】

**成 果** 冬休み明けのタイミング、校内放送での実施となったが、全校生徒が真剣な態度で放送に耳を傾け、自らの考え、行動を見直すきっかけとなった。今後は全校生徒が集まる機会においていじめ根絶のメッセージを発信し、いじめを根絶する。

**取組の名称** 生徒会主体の「いじめの根絶」の取組

1月23日(月)

**取組の概要** 場所：本別高等学校

**【ねらい】**

全校生徒で取り組んでいる「絆づくりメッセージコンクール」において、生徒会の「大丈夫 あなたは決してひとりじゃない」が最優秀賞となったことを契機に、いじめの根絶への意識をさらに高めていく。

**【概要】**

生徒会執行部が作成した受賞作品の横断幕を生徒玄関ホールに掲示し、啓発活動を行った。また、毎月発行している生徒会だよりもに掲載し、常に生徒の目に付くようにした。

**【生徒の感想】**

他校の取組を聞き、本校でも全校交流を実施したいと考えた。今後、この取り組みを通して、いじめがなく楽しめる学校づくりをしていく。



【横断幕を掲示する様子】

**本別高校**

**生徒会だより**

発行日: 2023年 1月 30日 第 10 号

**とさんこ★子ども十勝地区会議**

生徒会執行部の2年生で昨年11月9日に実施された、とさんこ子ども十勝地区会議に参加しました。この会議のテーマ「いじめ」について十勝の中学生から活動の工夫と感想を交換しました。

私は初めて、自分たちが取り組んでいる「絆づくりメッセージコンクール」のアンケートや「絆づくりメッセージコンクール」について積極的に質問してメッセージを作成し、いじめへの意識を高めています。

他の学校の取組は経験が豊富で交流し、いじめ根絶に努めています。今後も、今後の取組を通じていじめ根絶に取り組んでいきます。よろしくお願いします！！

人際が苦手な中ではありますが、これから皆さんと一緒に学校生活が楽しくなるように生徒会執行部一丸力を合わせて頑張っていきたいと思います。ご協力お願いします！！

**絆づくりメッセージコンクール**

今回4作「絆づくりメッセージコンクール」部門の最優秀賞作品が最優秀賞に選ばれました。

「大丈夫 あなたは決してひとりじゃない」 - 生徒会執行部の制作です。

**柏葉高校との連携事業**

昨年12月17日に生徒会執行部は柏葉高校と連携事業として最優秀賞作品の交換と交流を行いました。柏葉高校さんの部活動の様子や学校の雰囲気などを見せていただきました。柏葉高校さんの部活動は本校や学校の雰囲気との違い、部活動の多さにも驚かされた方が多くありました。柏葉高校はクラスごとに部活動が行われているそうです。

私たちは本別高校の部活動の一つである総合体育について詳しく説明させていただきました。手土産に、SAY グループの本番フィナンシアを持ってきて、とても楽しく交流しました。

交流は、2月23日(本別高校)で交流を予定しています。

**2月の予定**

2月 8日(水) スキー授業  
2月17日(金) 学生実習  
2月20日(月) 伊丹実習  
2月21日(火) 伊丹実習  
2月27日(月) 必修式典実施

【生徒会だより】

**成 果** 生徒会の作品は、2年連続で賞をいただいた。全校生徒も一人一人がいじめに向き合ってメッセージを作成することで、いじめは絶対にあってはならないという意識の向上に繋がっている。



**取組の名称** 生徒会長による「いじめ根絶講話」の取組

1月13日（金）1校時

**取組の概要** 場所：足寄高等学校放送室及び各学級

**【ねらい】**

生徒がいじめに対して主体的に考え、いじめを絶対に許さない態度を育成することを目的にいじめ根絶講話を実施した。

**【概要】**

冬季休業期間後の全校集会時に、生徒会長から全校生徒に向けたいじめ根絶講話を実施。生徒会長から全校生徒に対して、いじめを許さない意識を高めるための取組を行うこと、お互いを知り、様々な思いや考えを受け止めることの重要性、感謝や思いやりの気持ちを伝え合うことができる環境づくり等の講話を行った。

**【生徒の感想】**

様々な行事で、全校生徒が一致団結していくために、他者との関わりにおいて良好な雰囲気作りが必要である。生徒会長の話から仲が良くても適切な距離感を保ち、お互いが過ごしやすい学校を作っていくことが必要だと感じる事ができた。



【いじめ根絶講話の様子】



【いじめ根絶講話協議の様子】

**成 果**

「お互いのことをもう一度考える機会」「他者との関りについてどう接していくことが大切かを考える機会」として本取組を設定したことから、長期的な視点で生徒の成長を見守っていきたいと考える。

**取組の名称** いじめ根絶に向けて、今、私たちができること

11月22日（日）

**取組の概要** 場所：生徒会室

**【ねらい】**

改めて本校でのいじめの現状を再認識するとともに、生徒自身がいじめを絶対に許さない態度の育成を図る。

**【概要】**

Zoomによる「どさんこ☆子ども十勝地区会議」において、各校のいじめ根絶に向けての取組の報告を受けて、生徒会中央委員を中心に「いじめ根絶」に向けて本校でできることは何かを改めてグループ討議をした。その結果、現状行っている「あいさつ運動」や「いじめ防止ポスター」による呼び掛け活動をより充実させて実施していくことにした。

**【生徒の感想】**

普段行っている挨拶が人と人とのコミュニケーションの手段であり、それがまたいじめ防止につながっているということにグループ討議を通して改めて意識することができた。



【グループ討議の様子】



【いじめについて考える様子】

**成 果**

グループ討議を通して、普段何気なく行っている挨拶がコミュニケーションの手段でもあり大切さを実感できた。今後、「自ら進んで」、「相手の目を見て」、「心を込めて」を意識して相手を思いやる挨拶を心掛けたい。

**取組の名称** 2022 しほろ夢フェスタ～挑戦し続けることの大切さ

12月19日(水) 4校時

**取組の概要** 場所：土幌高等学校体育館

**【ねらい】**

自分自身の在り方や生き方を気付かせる機会とするため。

**【概要】**

バレーボール日本代表でロンドンオリンピック銅メダリストの佐野さんから夢を追い続け成果を掴み取ることができた体験談から、自身の生活を振り返った。

**【生徒の感想】**

挑戦し続けることの大切さを学ぶことで、今後の学校生活の糧とすることができた。



【講演の様子】



【生徒からのお礼の様子】

**成 果** 夢や目標に向かって聞くことで、他を否定するいじめに繋がらないと考える。今後も、生徒が志を持った学校生活を送ることができるよう生徒と相談し、学校環境を整えていきたい。

**取組の名称** ①「命の大切さを学ぶ教室」 7月19日(火) 1校時 多目的教室(1年生)

**取組の概要** ②「生徒会交流」 12月23日(金) 1校時 多目的教室(全学年)

**【ねらい】**

- ① 生徒自らが自身の心のセルフケアができるように、ストレスとその対処法を学び身に付ける。
- ② 自他共にかげがえのない存在であることを意識させる。

**【概要】**

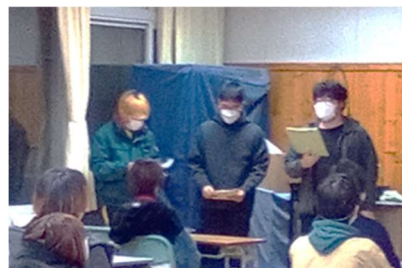
- ① 帯広市保健福祉部より保健師の方を講師として招聘し、講演を第1学年が受けた。ストレスの要因、その対処法について整理した。更に、自分では解決困難な状況にあるとき、自分から助けを求める方法を身に付ける等のワークショップを行い、自他共に理解を深めた。
- ② 生徒会企画の交流を通じて、自他共に尊重される存在であることを意識させた。

**【生徒の感想】**

- ① ・ストレスに気付き、うまく解消できるようにしたい。  
・つらい時や対処法をグループで共有できてよかった。
- ② 異学年交流は有意義だった。



【講演の様子】



【生徒会執行部が説明する様子】

**成 果** 自己理解についてグループで交流することで、自他の繋がりや存在を意識し、命を大切にしようとする意識が醸成された。